

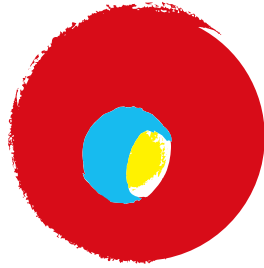
東アジア文化都市
2022大分県

Culture City of East Asia 2022. OITA

事業報告書

Culture City of East Asia

2022 OITA



東アジア文化都市
2022 大分県

Culture City of East Asia 2022. OITA

事業報告書



創造が、

Culture City of East Asia 2022 OITA





©JASPAR, Tokyo, 2022 and Chiharu Shiota
撮影：サニー・マン
©湯治温泉世界実行委員会



沸きあがる。

県民総参加で沸いた、たくさんの創造と伝統の継承——
2022年、おんせん県の熱い情熱の記録をたどって。

Contents

005－主催者あいさつ

007－開催概要

008 東アジア文化都市とは

011－事業概要

012 東アジア文化都市 2022 大分県

014 開催趣旨

016 交流都市

019－事業報告

019 プレ事業

029 開幕事業

035 都市間交流事業 コア事業

049 都市間交流事業 連携事業

083 関連企画

088 交流都市イベント

091 閉幕事業

097－共同宣言

099－資料

100 広報

110 実施体制

113 事業収支

114 評価分析

主催者あいさつ



東アジア文化都市2022大分県
実行委員会 委員長
大分県知事

広瀬勝貞

Katsusada Hirose

2022年に取り組んだ「東アジア文化都市2022大分県」が、12月末をもって閉幕しました。本事業に参加した県民の皆様、交流都市の中国温州市、済南市、韓国慶州市の皆様、そしてすべての関係者の皆様に対し、心より厚くお礼を申し上げます。

本事業の実施は、コロナ禍の中ということで、人の往来が制限され、イベントの実施も常に困難と隣り合わせでしたが、知恵を出し工夫しながら、県民総参加で大分の多彩な文化を楽しんでいただけたよう取組を進めてきました。

5月の開幕式典では、世界的ピアニスト、マルタ・アルゲリッチさんによる記念演奏を実施するとともに、8月からはコア事業が本格的に始まりました。混浴温泉世界、大分アジア彫刻展、DRUM TAOなど、大分を代表する芸術文化が、東アジア文化都市事業と融合することで、これまでになかった特別なイベントとして実現しました。さらに、県内の芸術文化団体が、音楽、美術、書道、ダンスなどの様々な分野で中国、韓国との交流を行うなど、草の根交流も着実に進展しました。

このように、2022年は大分県の芸術文化の情熱が各地で沸き上がりました。この情熱を一過性のものとすることなく、新たに芽吹いた、温州市、済南市、慶州市との絆を大切にしながら、芸術文化による国際交流や相互理解を推進するとともに、芸術文化の持つ創造性を活かした産業振興にも取り組むことで、都市の持続的な発展につなげていきたいと考えています。

大分県はこれからも、東アジアとの相互交流を末永く重ね、芸術文化の楽しみや感動を分かち合っていきながら、県立美術館と県立総合文化センターとを合わせた芸術文化ゾーンを核にして、「創造県おおいた」をさらに前に進めてまいります。

主催者あいさつ



文化庁長官
都倉俊一
Shunichi Tokura

大分県にて開催された2022年の東アジア文化都市が成功裏に終了したこと、誠に喜ばしく思います。大分県をはじめ、多くの関係者のご協力・ご尽力に心より感謝を申し上げます。

東アジア文化都市は2014年から開始され、日中韓それぞれの都市が互いの豊かな文化芸術を発信し、交流することで、三か国の友好協力関係の深化を図る事業です。また、選定された都市が、その文化的特徴を活かして、文化芸術・クリエイティブ産業・観光の振興を推進することにより、都市自体の発展も目指しています。

大分県では、「創造県おおいた」のスローガンを掲げ、この一年県民の皆様総参加のもと、中国の温州市、済南市、韓国の慶州市と連携しながら、東アジア文化都市事業に取り組んでこられました。それは、文化の力、大分県の魅力の再認識というだけではなく、日中韓三か国に共通する文化や価値観の発見・再確認につながったのではないのでしょうか。

「東アジア文化都市2022大分県」は閉幕しましたが、大分県の魅力が日中韓だけでなく世界に発信されていくとともに、東アジア文化都市の取組を通して蒔かれた文化の種たちが各地で花開き、日中韓三か国の文化交流が一層深まっていくことを期待しております。

開催概要

2022
Culture City of
East Asia
OITA

東アジア文化都市とは

「東アジア文化都市」は、日中韓文化大臣会合での合意に基づき、日本・中国・韓国の3か国において、文化芸術による発展を目指す都市を選定し、それぞれの都市で芸術文化や伝統文化、多彩な生活文化に関連する様々な文化芸術イベント等を相互交流を行いながら実施するものです。これにより、東アジア域内の相互理解・連帯感の形成を促進するとともに、東アジアの多様な文化の国際発信力の強化を図ることを目指します。

また、東アジア文化都市に選定された都市がその文化的特徴を生かして、芸術文化はもとよりクリエイティブ産業や観光の振興を推進することにより、事業実施を契機として持続的に発展することも目的としています。

これまでの開催都市

2014

日本 横浜市
中国 泉州市
韓国 光州広域市



2015

日本 新潟市
中国 青島市
韓国 清州市



2016

日本 奈良市
中国 寧波市
韓国 済州特別自治道



2017

日本 京都市
中国 長沙市
韓国 大邱広域市



2018

日本 金沢市
中国 ハルビン市
韓国 釜山広域市



2019

日本 豊島区
中国 西安市
韓国 仁川広域市



2020-2021

日本 北九州市
中国 揚州市
(2020年)
紹興市・敦煌市 (2021年)
韓国 順천시



2022

日本 大分県
中国 温州市
濟南市
韓国 慶州市



2022年 大分県が「東アジア文化都市」国内都市に選定

2021年8月30日(月) 開催場所/リーガロイヤルホテル小倉(福岡県北九州市)



8月27日、2022年の東アジア文化都市の国内都市を大分県に決定したことが文化庁より発表されました。8月30日に北九州市で開催された「第12回日中韓文化大臣会合」において、中国の温州市・済南市、韓国の慶州市とともに大分県が2022年の東アジア文化都市に正式に決定され、萩生田光一文部科学大臣(当時)から「2022年東アジア文化都市選定証」を授与されました。

実行委員会発足

2021年12月7日(火)
開催場所/ホテル日航大分オアシスタワー
孔雀の間(大分市)



日本の東アジア文化都市としては初めて「県」単位での取組となりました。東アジア文化都市2022大分県の開催に向け、県内の芸術文化、経済・観光団体、メディア等が連携した実行委員会を設立し、事業の実施に本格的に着手しました。

機関長会議

2021年12月21日(火)
開催場所/レンブラントホテル大分 竹の間
(大分市)



中国・韓国の東アジア文化都市の代表者がオンラインで一堂に会し、各都市の特長や歴史、各都市の事業取組について共有しました。また、本事業の取組を通じて、文化交流のみならず観光など産業面でも協力し、共に持続可能な都市づくりを進めることを確認しました。

「デンデンドウ〜」故郷の記憶

時々ふっと思い出す「デンデンドウ〜」と歌う大分の合唱団「マトリカリアコール」の澄んだ声。10月に東アジア文化都市事業の一つとして企画された“宇宙を文化スル「月と星と宙のコンサート」”では、日本、中国、韓国の音楽家たちにより中国・温州市出身の作曲家 潘玺帆さんの新曲「旅人の故郷の記憶」が演奏されました。この曲は温州の童謡『デンデンドウ叮叮当』をベースに作られた曲であり、世界で活躍する温州人にとって『デンデンドウ』は故郷を思い出す心の歌だそうです。この曲が演奏された後、温かな拍手が作曲家の潘玺帆さんをはじめ、日中韓の音楽家たちに寄せられました。芸術文化を通じてその土地を知ること、人を知ることであり、あらためて国を越えて人と人との絆が深まっていくことを感じました。東アジア文化都市の事業を通じて、各地の、その風土、四季から生まれる芸術に接し、各国の文化を知る一年となりました。東アジア文化都市事業は“これから”であり、この先、どんなふうに道が耕されて花が咲いていくのか。楽しみではありません。

この原稿を書きながら、温州市の豊かな自然、風景が描かれている「旅人の故郷の記憶」のメロディーを思い出し、温州を訪れたくなりました。私にとって、この曲は東アジア文化都市の優しく温かな記憶を呼び起こしてくれる心の歌となっています。



アイモンド株式会社 代表取締役
松田 亜有子
Ayuko Matsuda



事業概要

2022
Culture City of
East Asia
OITA

東アジア文化都市2022大分県

大分県のこれまでの多彩な芸術文化活動が高く評価され、2022年の「東アジア文化都市」開催都市に大分県が選ばれました。2014年に始まった東アジア文化都市事業の開催都市として、都道府県単位での開催は大分県が初。県全体を一つの文化圏ととらえ、県内複数の自治体が一つになって様々な芸術や文化イベントを企画し、日中韓3か国による交流事業を一年かけて推進しました。

会 期 2022年1月～12月

実施事業 158事業

実施事業数	プレ事業	開幕事業	都市間交流事業		関連企画	閉幕事業	計
			コア事業	連携事業			
	6	3	8	121	15	5	158

参加者数 54万人(オンライン参加を含む)

主 催 東アジア文化都市2022大分県実行委員会、大分県、文化庁

会 場 iichiko総合文化センター、大分県立美術館、
別府国際コンベンションセンター(ビーコンプラザ)ほか県内各所・施設
温州市、済南市(中国)
慶州市(韓国)



開催テーマ

県民総参加で「おおいた」の文化を発信し、 東アジアとの交流によって新たな文化を切り拓く

この開催テーマを掲げ、プレ事業・開幕事業・都市間交流事業（コア事業・連携事業）・関連企画・閉幕事業の5つの柱で事業を展開しました。

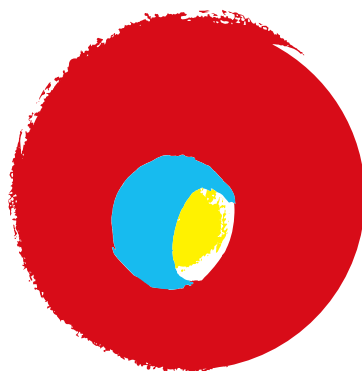
ロゴマーク

ロゴマークは、OITAの「O」を基盤に、東アジア各地域の文化が互いにリンクしている様子をカタチにしました。文化に対する情熱が渦巻き、広がっていくことを象徴しています。

色彩については、赤色が温泉を生むマグマを彷彿とさせ、文化を育むエネルギーや内なる情熱を表し、水色は海や空などの豊かな環境を、黄色は豊穡な大地を意味しています。

ロゴマーク制作者

彫刻家 東京藝術大学名誉教授 深井 隆 氏



東アジア文化都市 2022 大分県

Culture City of East Asia 2022. OITA

開催趣旨

大分県は、豊かで美しい海と緑の山々、豊富な温泉や湧水など多様な自然に恵まれ、個性豊かな風土を形成してきました。古くは宇佐八幡文化、六郷満山の仏教文化が華ひらき、16世紀にはキリシタン文化が導入され、日本で初めて聖歌隊がつくられるなど、異文化を積極的に受け入れ融合しながら、固有の文化を創造する進取の気風に富んだ都市として発展を続けてきました。

このような自然と歴史を背景に、県内では各地で、特色ある文化財や独自の文化・風土が育まれてきました。全国で唯一の磨崖仏の国宝である臼杵石仏やユネスコ無形文化遺産に指定された祭り、さらには神楽や踊りなどの多種多様な伝統芸能が脈々と受け継がれています。こうした文化は、人々の心を豊かにし、ゆとりと潤い、安らぎと生きがいをもたらしてくれます。

東アジア文化都市事業では、大分県だからこそ取り組める多彩な事業を展開し、文化の担い手である県民が芸術や伝統といった様々な文化に親しむことのできる場づくりに努めます。

さらに、中国、韓国の東アジア文化都市をはじめとする創造的な都市ともしっかりと連携し、文化を通じた国際交流や相互理解・価値観の共有を進め、東アジアの平和や多様性の尊重に貢献していきます。

文化の香り高い「創造県おおいた」として、この1年間、「東アジア文化都市2022大分県」を県民総参加で取り組み、文化を起点に、人を育て、地域を活性化するとともに、新たな文化を創造しながら持続的に発展する文化都市の形成を目指します。

事業目標

1 「人」を育て活かす

県内各地の特色ある様々な文化に光をあて、交流の場に持ち込んで、文化に対する県民の情熱をさらに高めていきます。

2 「地域」を創造する

様々な交流を通じて、芸術文化の力を観光や産業にも活かす創造的な地域づくりに取り組みます。

3 東アジアの相互理解と多様性の尊重に貢献する

文化の楽しみと感動を中国、韓国の創造都市の方々と分かち合いながら、域内の相互理解と連携を深めます。

事業構成

事業名		実施期間	内容
プレ事業		2022年1月～5月	東アジア文化都市を県民に広く周知し、開催への機運を高めるため、プレイベントを実施
開幕事業		2022年5月22日(日)	東アジア文化都市2022大分県のオープニングイベントとして、開幕式典、交流行事、開幕関連行事を実施
都市間交流事業	コア事業	2022年8月～12月	県内の特色ある芸術文化イベントをコア事業に位置づけ、中国、韓国の芸術文化団体やアーティストとの交流を織り交ぜながら、多彩なイベントを実施
	連携事業	2022年5月～ 2023年1月	県内の市町村や芸術文化団体と連携して、様々な公演やイベント等を開催するとともに、中国、韓国との文化交流を実施
関連企画		2022年5月～ 2023年3月	県内の各種団体と連携して、東アジア文化都市の取組と関連するイベントや企画を実施
閉幕事業		2022年11月6日(日) ・7日(月)	県民総参加で取り組んだ東アジア文化都市2022大分県を締めくくる式典や歩行者天国など、芸術文化ゾーンを活用したイベントを開催

交流都市

温州市 [中国]

(おんしゅう/ウェンヂョウ)

Wenzhou

[人口] 約912万人 [面積] 11,784km²



中国の華僑の故郷であり、70万人以上の温州出身者が世界130か国・地域で活躍している。歴史悠久、風光秀麗で、国家重点風景名勝や国文化財が多く存在する。



済南市 [中国]

(さいなん / チーナン)

Jinan

[人口] 約920万人 [面積] 10,244km²



山東省の省都で黄河が市内を流れ、泉が豊富であることから「泉の都」と呼ばれてきた。自然と歴史が豊富なことから、国家歴史文化名城に指定されている。



慶州市 [韓国]

(けいしゅう / キョンジュ)

Gyeongju

[人口] 約25万人 [面積] 1,324km²



約1,000年に渡って新羅王朝の首都として栄えた古都。「石窟庵と仏国寺」や「慶州歴史遺跡地区」などがユネスコ世界文化遺産に登録されており、「屋根のない博物館」と呼ばれている。

